



Yasui Nakaji

安井仲治

生誕
120
年

僕の大
切な
写真

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



1903-1942

Photographs

2024 2.23^{金祝} — 4.14^日

安井仲治

生誕120年

日本写真史において傑出した存在として知られる安井仲治（1903〜1994）の20年ぶりとなる回顧展を開催します。大正・昭和戦前期の日本の写真は、アマチュア写真家たちの旺盛な探求によって豊かな芸術表現として成熟していきました。この時期をけん引した写真家の代表格が安井仲治です。安井は38歳で病没するまでの約20年という短い写歴の間に、驚くほど多彩な仕事を発表しました。その作品は同時代の写真家をはじめ、土門拳や森山大道など後世に活躍した写真家たちからも掛け値なしの称賛を得ています。安井はさまざまな被写体にカメラを向け、多岐にわたる技術や表現様式に果敢に取り組みました。しかし、それらの写真は世界に対する透徹した態度と感受性に貫かれています。なんでもない景色のなかに、世界の秘密を発見した驚きと興奮。小さく、醜く、一顧だにされないものによる注がれる慈しみのまなざし。安井が「見たもの」に思いを馳せ「見せたもの」に浸るとき、私たちの内にはさまざまな思考と感情が去来することでしょう。安井の写真には100年の時を超えてなお私たちを惹きつける魅力があるのです。

本展は200点以上の出展作品を通じて安井仲治の全貌を回顧するものです。戦災を免れたヴィンテージプリントをはじめさまざまな資料によって安井の活動を実証的に跡付けることにも、ネガやコンタクトプリントの調査に基づいて新しく制作したモダンプリントも展示。写真の可能性を切り拓いた偉大な作家の仕事が現代によみがえらせます。

見どころ

近代写真の金字塔「安井仲治」を知らずに日本の写真は語れない！

200点超の作品と豊富な資料で全貌を解き明かす！

写真はこんなにも自由なんだ！多彩なバリエーションとインサイトが光る、仲治の代表作が集結

プロフェッショナルの手で現代によみがえる精華。珠玉のモダンプリント

生誕120年 安井仲治 僕の大切な写真

会期 2024年2月23日（金・祝）～4月14日（日）

休館日 月曜日（4/8は開館）

開館時間 10:00～18:00（金曜日～20:00）*入館は開館30分前まで

入館料 一般1,300円、高校・大学生1,100円、中学生以下無料

主催 東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、共同通信社

協力 銀遊堂、PGI、株式会社アフロ

協賛 T&D保険グループ

助成 公益財団法人ポーラ美術振興財団

会場 東京ステーションギャラリー（JR東京駅丸の内北口改札前）

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1

Tel. 03-3212-2485

<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

広報お問い合わせ先 東京ステーションギャラリー学芸室（羽鳥）

Tel. 03-3212-2763

- 1 (馬と少女) 1940年 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 2 流氓ユダヤ 窓 1941年 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 3 (凝視) 1931年 (モダンプリント制作:2023年)
- 4 (サーカスの女) 1940年 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 5 (山羊と半島婦人) 1937-40年 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 6 秩序 1935年 (モダンプリント制作:2023年)
- 7 (構成 牛骨) 1938年頃 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 8 蛾 (二) 1934年 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 9 (虫) 1938年頃 個人蔵 (兵庫県立美術館寄託)
- 10 帽子 1936年 (モダンプリント制作:2023年)



僕 の 大 切 な 写 真

